

大手前中高23期同窓会



責任が重く、しかかる年代となった今、同級生と他愛もない四方山話をし、ストレンスを解消しませんか、と呼びかけ、10月5日土曜日帝國ホテル大阪ベガサスの間に於いて平見先生、大村先生、田中先生、森先生、山本先生、原田先生にご出席頂き、同窓会を開催致しました。司会の橋本君の開会挨拶、そして大村先生の「乾杯の声」とともにカーテンがオープンし、美しい夜景を臨みながら

の楽しい同窓会は始まりました。数十分の歓談の後、各先生にお言葉を頂きました。特に平見先生の85歳でとても元気な話しっぷりを拝見し、感動致しました。受付で各自取って頂いた色紙のカラー診断を行い、アンケート結果（山桜会ホームページに掲載しております）を発表し、旧姓加納さんのシャロンを聞き幹事が閉会の挨拶をさせて頂きました。出欠のお返事時間にお答え頂きましたアンケートの結果からも立派な社会人となっていることがわかり、こんなに立派な姿で同級生が集まれるのも、偏に大手前中高で厳しく教育して下さった先生方のお陰だと存じます。追手門学院大手前中高を卒業したことを誇りに思い、23期が益々社会でご活躍されることを祈りつつ、2年後の同窓会で一人でも多くの方にお目に掛かれる事を楽しみにしております。

（集合写真は奥田一臣君が撮影） 松本記

スペースシャトル上での実験に参加して宇宙酔い発症機序の解明

はじめに
平成10年4月17日アメリカ東部時間の午後2時19分その日目に光景は私にとって一生忘れられないものとなった。10、9、8、7、6、5、4、3、2、1、0！。ほんの5km先の発射台から、これまで見たことがないような、眩しいくらい明るく、限りなく透明で、そしてものすごくきれいなオレンジ色の炎と、真っ白な煙を噴出しながらスペースシャトル・コロンビア号が、これまたあくまでも真っ青な空に吸い込まれるように飛び出す姿を目の当たりにすることが出来たのだ。

ここはアメリカ合衆国フロリダ州にあるケネディ・スペースセンター内の、関係者専用の打ち上げ観察場である。そして、その瞬間私がこれまで約3年間関わってきたニューロラブ計画が、まさに大詰め



ヒューストンのNASAミッションコントロールセンターにて

を迎えようとした瞬間であった。ニューロラブ計画とは、ニューロラブ計画は1990年にジョージ・ブッシュ大統領が定めた「脳研究10年計画（Decade of the Brain）」に基づいて、米航空宇宙局(NASA)が米国立公衆衛生院(NIH)と協力して計画したものである。スペースシャトルを利用して、宇宙環境における神経科学分野の研究を行うことを目的とし、アメリカ合衆国、フランス、日本などの6カ国、8つのチームが、26テーマの実験を分担して行った。日本からは福岡医科大学の清水強教授、名古屋大学環境医学研究所の間野忠明教授、筑波大学医学部の吉田薫教授そして私、肥塚の4名がこれに参加した。今回のニューロラブのミッション期間は、16日間であった。

アメリカではすでに、一般人を対象とした「宇宙体験ツアー」の募集が始まり、我々一般人が宇宙に行くことも夢物語ではなくなりつつある。この宇宙旅行時代を迎えるにあたって、避けては通れない大きな問題が控えている。それは宇宙酔いと呼ばれる、乗り物酔いによく似た症状を、宇宙飛行士の約70%が経験しているという事実である。宇宙酔いの症状は、吐き気、嘔吐、顔面蒼白、冷汗などのいわゆる自律神経症状が主体となる。宇宙酔いに罹患すると極度に仕事の能率が低下し、その後のミッションの遂行に多大な影響を与える。宇宙船内と地上との大きな違いは重力加速度の有無である。

この重力加速度の受容は、内耳に三半規管とともに存在する、耳石器と呼ばれる部分により行われている。地上では頭部の運動により、耳石器と三半規管の両者が刺激を受けるが、宇宙空間では重力加速度が欠如するために、耳石器からの情報の一部が欠落する。この状態を、耳石器と三半規管との間の「感覚混乱」と呼ぶ。無重力下ではさらに、足底や関節からの、体性感覚と呼ばれる体の空間における位置を知る上で重要な情報も減少するため、地上で生じる感覚混乱よりもさらに複雑な混乱が生じる。この混乱が宇宙酔い発症に重要な役割を演じていると考えられている。今回のミッションではこの仮説を証明することを目的に、宇宙飛行士たち4名を被験者として、耳石器と三半規管のコーディネーションに対する、無重力の影響について検討を加えた。今回のスペースシャトル上での実験により、宇宙酔い発症の予防法、その治療法を考案することができた。近未来に待ち構えている宇宙旅行ツアーは、きっと宇宙酔いのない、快適なものになると思われる。

第5回 クラス会

去る7月7日(日)正午より、大丸梅田店14階の中国料理店「雲林」に於いて、第5回目のクラス会を開催した。今回は案内状の遅れもあつて、総員40名の内で多数の欠席があり、健在者の約半数の8名の出席で行われた。食事を楽しみながら和気あいあいの中で、楽しい雑談報告を行ったが、皆んな元気な前向きな話が多く、健康談義よりも活力ある人生観に花が咲き、有意義なひと時であった。

次回には必ず出席するという5名の報告があり、来年度の盛会を約し、再会を楽しみに時間オーバーになりながら散会となった。

写真は、後列右より額田、松島、石川、中島、弥谷、前列右より高藤、柳、長谷川の各君。(文責 弥谷)



10月12日、ホテルヒルトンにて開催。東京から参加の4人を加えて出席者は35人。私たちの学年は、小学校卒業時(昭和23年)の名簿が有りません。前年の11月27日に、紆余曲折を経て校名が追手門学院になったばかりなので、どさくさに紛れてしまったのでしょうか。35人の出席者中、小学校(入学時は偕行社学院)を出ている人が20人居り、追手門学院歌と共に、「聖旨台旨」の、大阪偕行社付属小学校々歌も歌います。加齢と共に昔を懐かしむ気持ちが増えるのでしょうか。次回からは「金剛石」も歌

54年ぶり、51年ぶりもあり 小59中高二期会

小学校だけの人も、高校だけの人も、同じ時代を生きた思いで繋がっています。中学卒業以来初めて参加の人も、小学校6年で転校して以来の人も、会えば、みいんな半世紀を一気にタイムスリッブして、童心にかえってしまおう。同窓会ってホント不思議な、でも、いいもんです。文責 多喜晴代

それからは各地域毎に、集団登下校をする様になったのだが、市電の大手前停留所で、5年・4年・3年・2年・1年の順で最後尾についた6年生の号令で整然と大手前公園を行進したものだ。途中、将校に出会うと「歩調トシ、頭(カシラ)右！」で敬礼をしていたのも懐かしい思いである。

此の文集を、母校に贈呈、10月に伊勢田校長にお手渡しした。

文集発行記念クラス会は9月28日、木曾路(心斎橋店)で開き、出まわった文集を見ながら、大いに盛り上がった。在学中、毎日の宿題の書取りの苦しかった事、しかし池田先生のこの「しこき」のお陰で漢字をよく覚えただけでなく、文章の理解力も向上したと全員一致して改めて先生に感謝をしていた次第である。

卒業して58年たった今も、毎年クラス会を開き、みんな仲良くしていかれるのも、良い学校、良い先生、良い友達に恵まれ、本当に幸せだとあらためて感謝の念を新にして

(大西義夫記)



小49期3組
クラス会
平成14年6月8日
午後6時30分 於
梅田新阪急ホテル
2F星の間



参加者
西本慶之
加藤尚也
米島 忍
竹中増雄
山本晴義
藤本 博
藤本典秀
古川滋郎
三田 裕
佐々木成之進
合計十名

本年は東急ホテルから新阪急ホテルに変更して例年通り六月第二土曜日の八日に開催いたしました。

約二時間にわたり学校時代の思い出を語りあひ来年に向けて健康での再会を約し楽しく終了いたしました。

以上

古稀記念
文集の作成
小55期1組
クラス会

昭和19年3月卒業の我々も全員70歳の古稀を迎えた。今年6月のクラス会の時に、これを記念して、みんなで小学校の思い出やら、最近考えている事等何でも良いから書いて、文集を作ろうと云う事になった。早速、現在連絡のつく級友33名に伝えたところ、何と25名から原稿を寄せられた。手書きの原稿は編集委員の方でワープロで打ちA4用紙で75頁のものが出来上がった。当時の児童手帳から、校歌・校訓・児童心得・学校規則を収録、また、当時の国定教科書(1年生用)から「サイタサイタ、サクラガサイタ」の項もコピーして取り入れた。

4年生の時に戦争が始まり、

それからは各地域毎に、集団登下校をする様になったのだが、市電の大手前停留所で、5年・4年・3年・2年・1年の順で最後尾についた6年生の号令で整然と大手前公園を行進したものだ。途中、将校に出会うと「歩調トシ、頭(カシラ)右！」で敬礼をしていたのも懐かしい思いである。

此の文集を、母校に贈呈、10月に伊勢田校長にお手渡しした。

文集発行記念クラス会は9月28日、木曾路(心斎橋店)で開き、出まわった文集を見ながら、大いに盛り上がった。在学中、毎日の宿題の書取りの苦しかった事、しかし池田先生のこの「しこき」のお陰で漢字をよく覚えただけでなく、文章の理解力も向上したと全員一致して改めて先生に感謝をしていた次第である。

卒業して58年たった今も、毎年クラス会を開き、みんな仲良くしていかれるのも、良い学校、良い先生、良い友達に恵まれ、本当に幸せだとあらためて感謝の念を新にして

(大西義夫記)